ウェルカム！スマイル作戦

ウェルカム！スマイル作戦とは

日立市に住む外国にルーツのある子どもの教育環境を改善し、多様な背景を持った子どもにとって住みやすい街にする作戦。

活動する上での二つの軸
- 課題の明確化
- 課題解決に向けた提言の模索

こどもの日本語能力をはじめ、人間形成の基礎が培われる重要な時期である幼児教育での課題に着目。 出典：中央教育審議会 (2005)

研究の流れ

(1) 先行研究を調べ、統計データ等を整理する。

(2) 日立市内の教育現場（幼稚園、 保育園、認定こども園。
以降、園とする。） へアンケート調査を行い、実態を調査する。

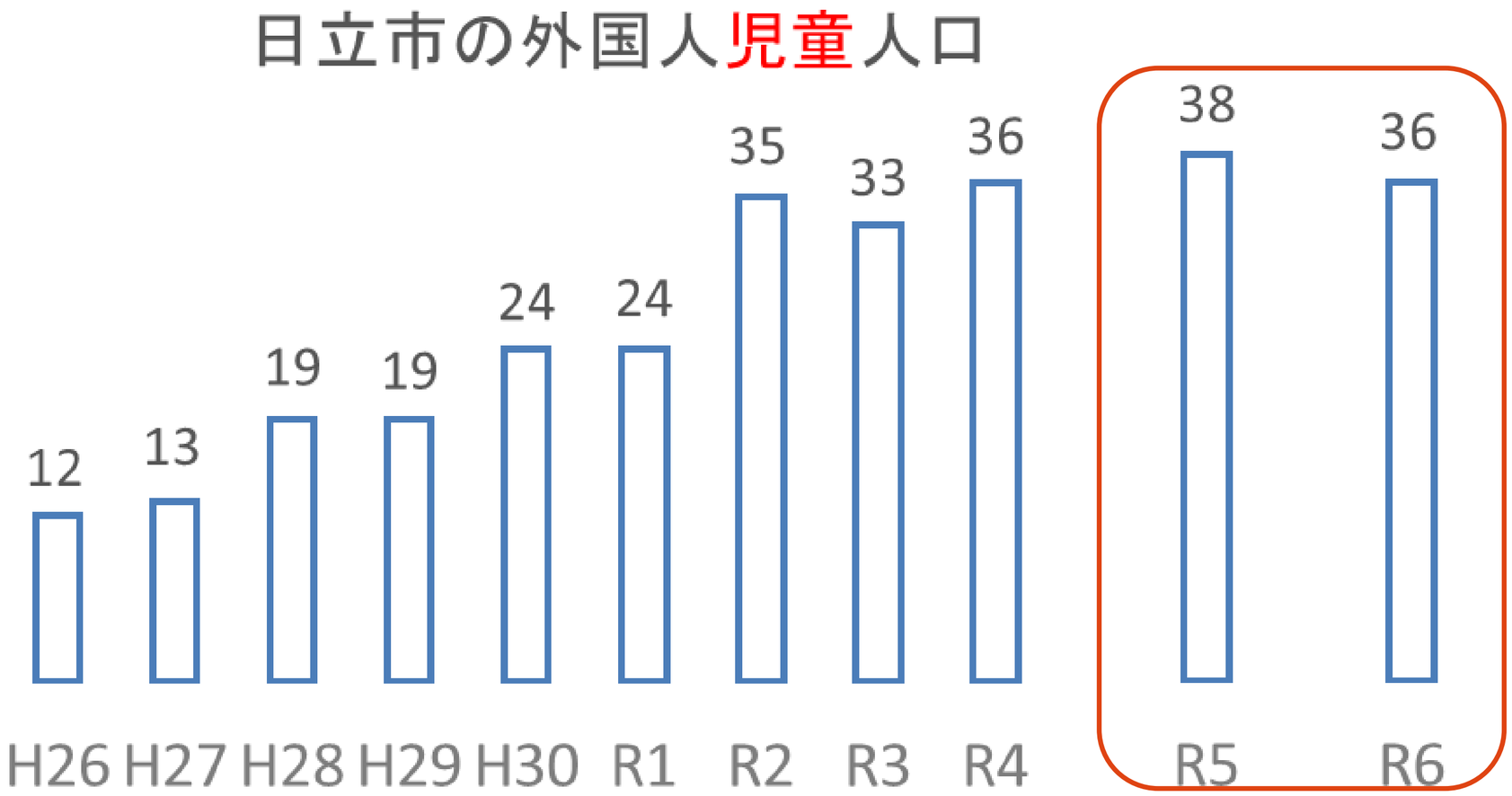
(3) 支援団体へインタビュー調査。

(4) 提言内容の模索。

研究の流れ

(1) 先行研究を調べ、
統計データ等を整理する。

増加する外国にルーツのある子ども



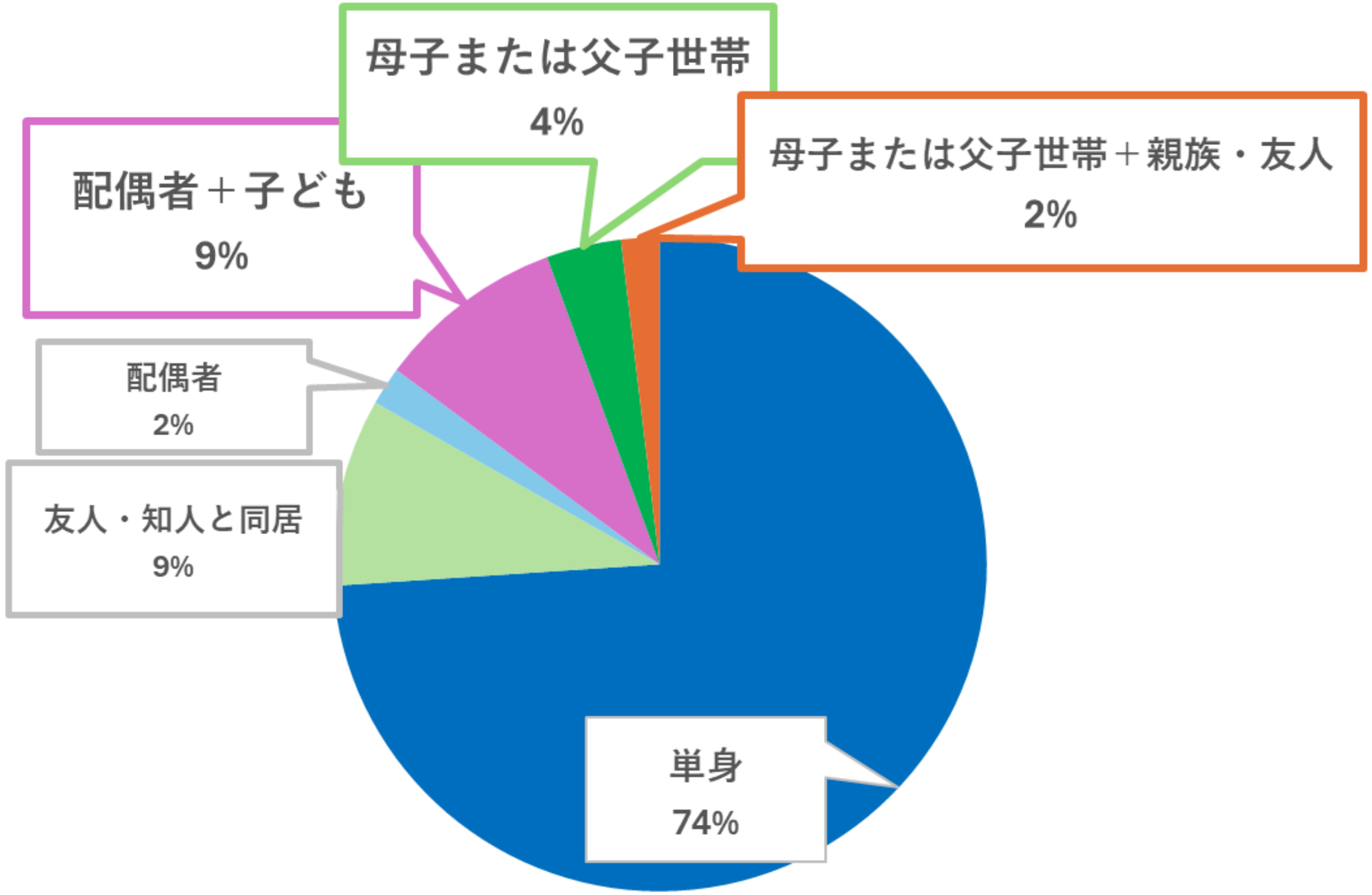
H26と比べて
３倍以上増加。

〈 要因 〉
労働力不足で外国人人材が注目されている。

〈 今後の動向 〉
外国にルーツのある子どもの教育への対応が迫られる。

茨城県　在留外国人関係データ集　外国人児童数（小学校）【令和6年5月1日】より作成。(2025/12/15 22:24参照)

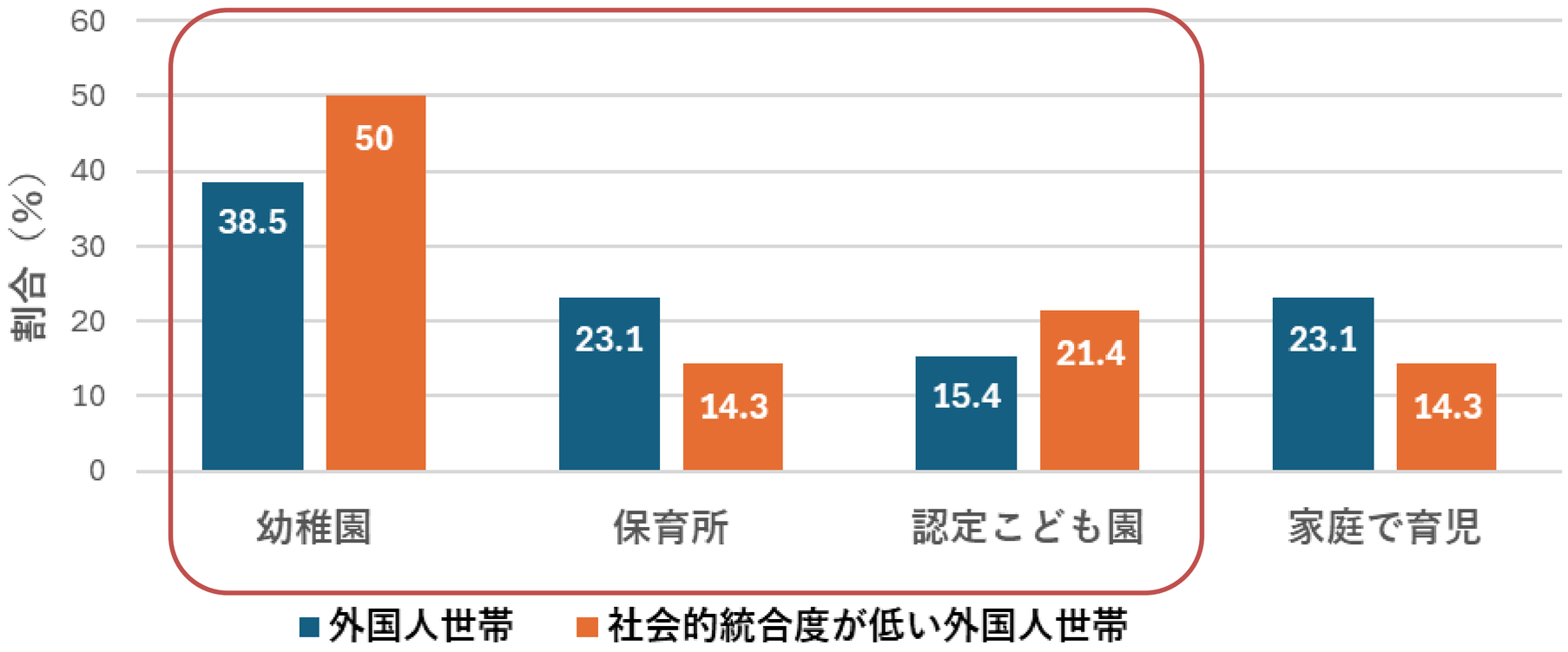
日立市在住外国人世帯の家族構成



岩間 ほか（2025)より作成。

- 全体の15%が子育て世帯

託児先



前掲より作成。

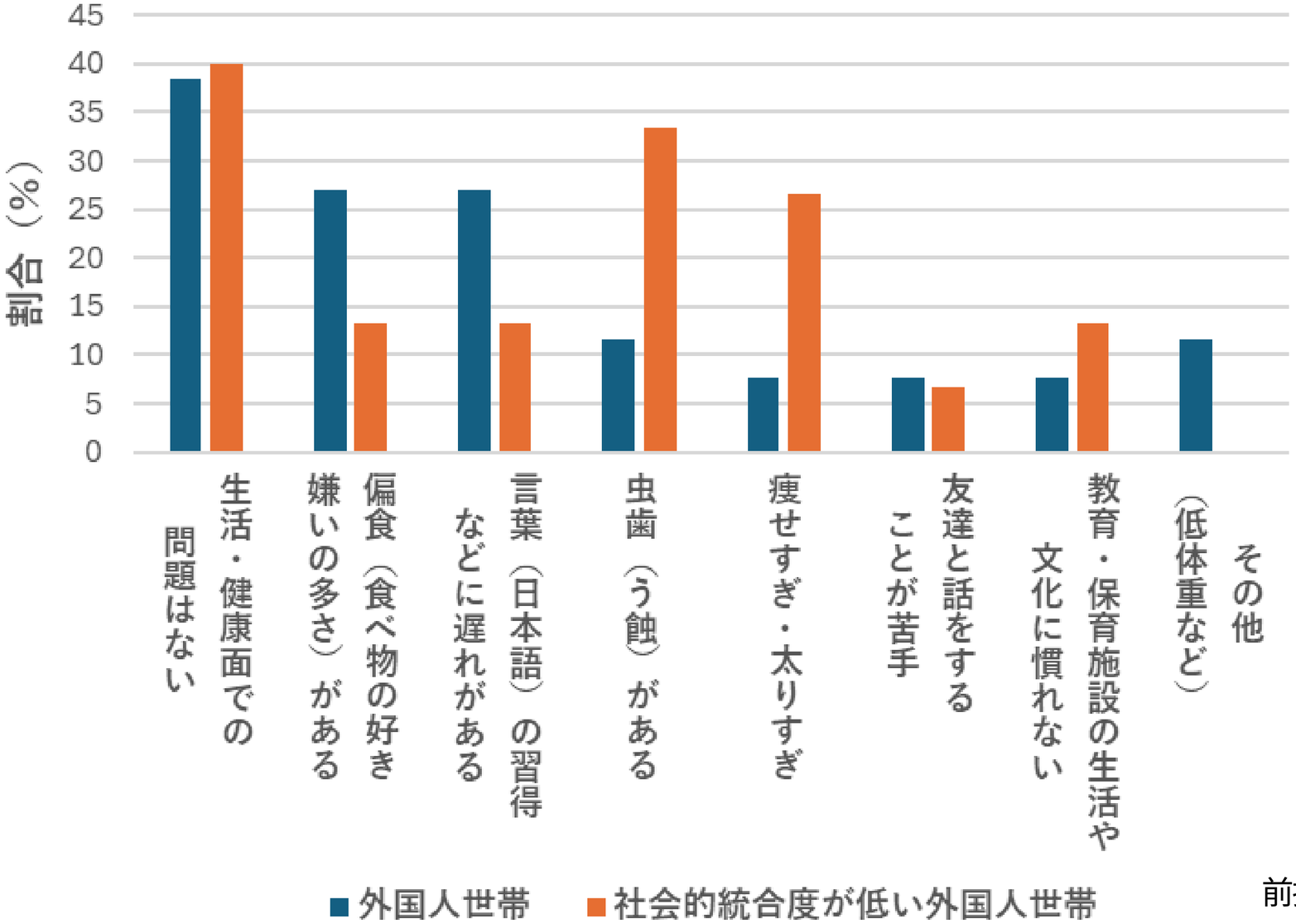
- 外国人の子育て世帯の多くが子どもを教育・保育施設に預けている。

仮説

- 施設とのつながりが支援を行う上で重要。

※社会的統合度が低い外国人・・・日本社会に溶け込みにくい外国人。ここでは日常会話レベル以下（日本語能力N3以下）で非正規雇用の外国人世帯が対象

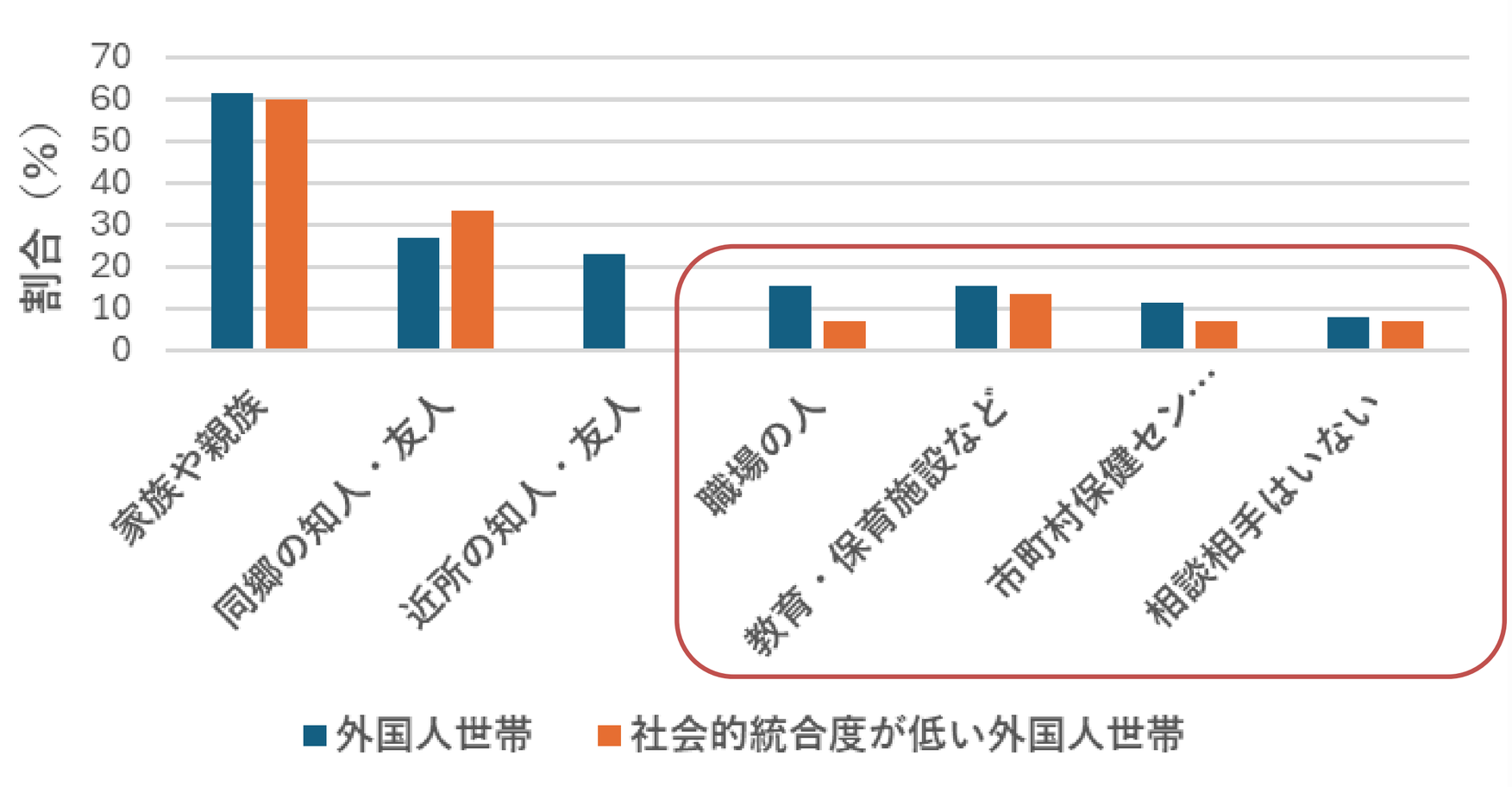
外国にルーツのある子どもの健康面での問題



前掲より作成。

- 社会的統合度が低い家庭の保護者は、子どもの健康状態に対応しきれていない。
- 言葉の壁等による支援の行き届きにくさが子どもの健康管理にも影響していることを示唆している。

外国人保護者の子育て上の問題に関する相談先



前掲より作成。

外国人保護者は同郷の身内を相談先に選ぶ傾向にある

⇩

- 困りごとの言語化が困難
- 相談先に偏りが生じる

外国にルーツのある子どもへの教育環境における課題　２つのポイント

言葉の壁　言葉の壁があることによるコミュニケーション不足等で子育てに必要な情報が得られない

相談する環境の不足　問題の相談先が身内以外に無いケースが多く、外部の情報が入りにくい

<u>日立市では上記を支援する環境は整っているのだろうか</u>

・梶田 孝道 , 丹野 清人 , 樋口 直人 2005年『顔の見えない定住化：日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会
・荒牧 重人ほか 2017年『外国人の子ども白書：権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』　明石書店
・田巻 松雄 2014年『地域のグローバル化にどのように向き合うか―外国人児童生徒教育問題を中心に―』下野新聞社

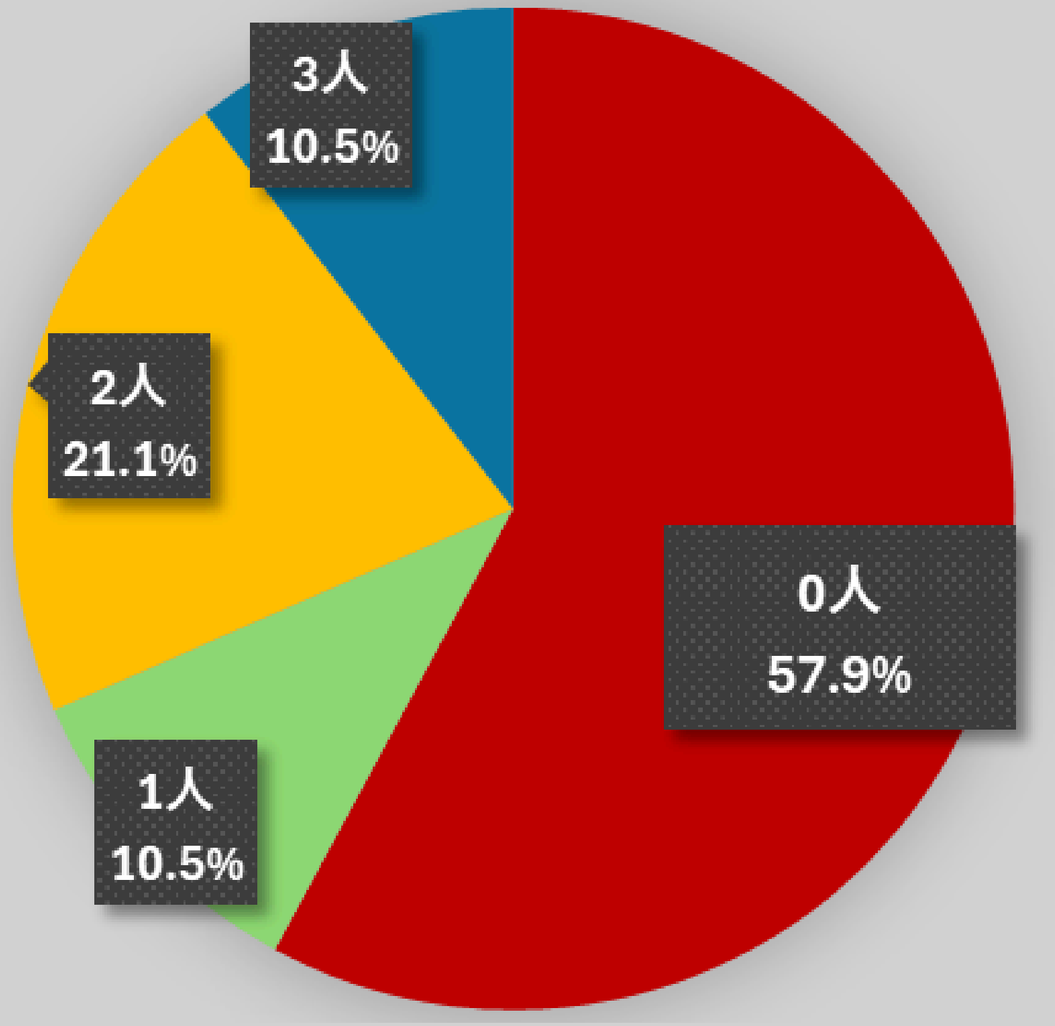
研究の流れ

(2) 日立市内の教育現場（幼稚園、 保育園、認定こども園。以降園とする。)へアンケート調査を行い、実態を調査する。

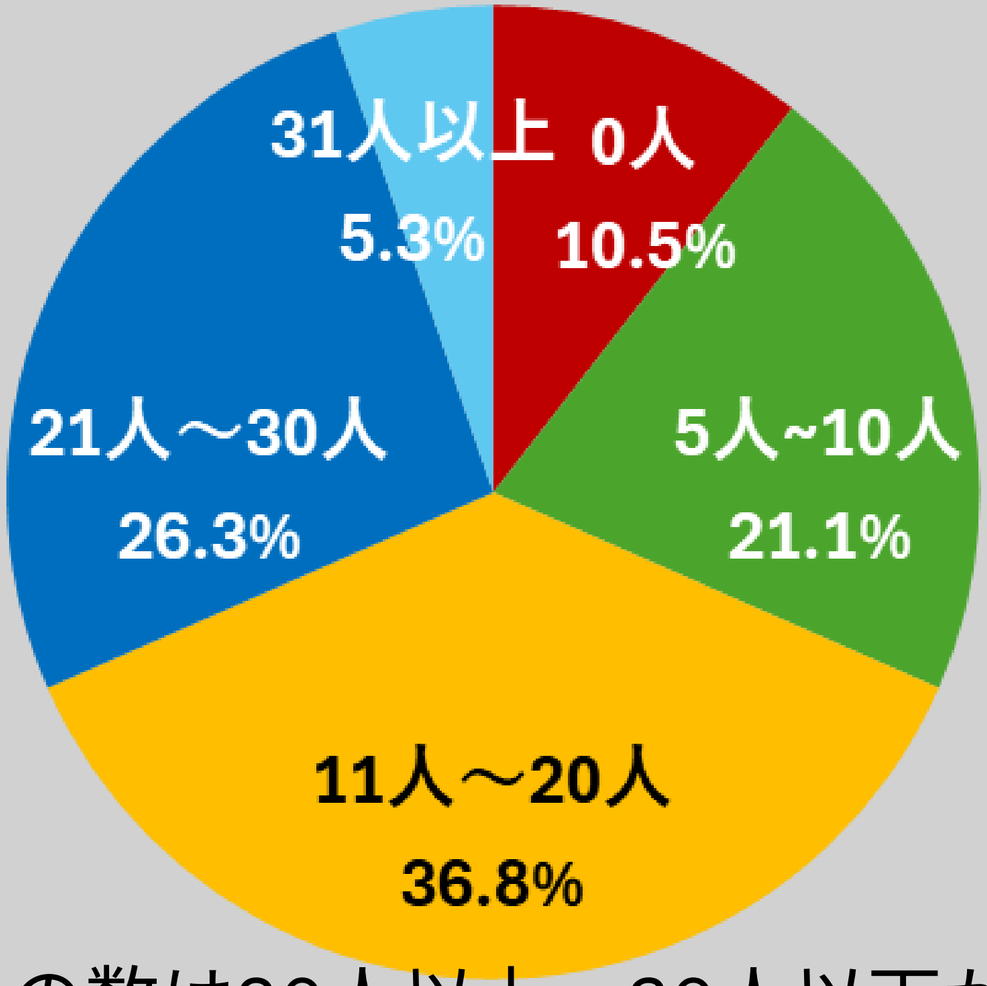
アンケート調査

対象：日立市内の幼稚園、保育園、認定こども園
回答期間：11/16〜12/15
調査内容：職員と保護者とのコミュニケーションの現状
方法：Google forms のQRコードを添付したメールを配布
回答数：19園

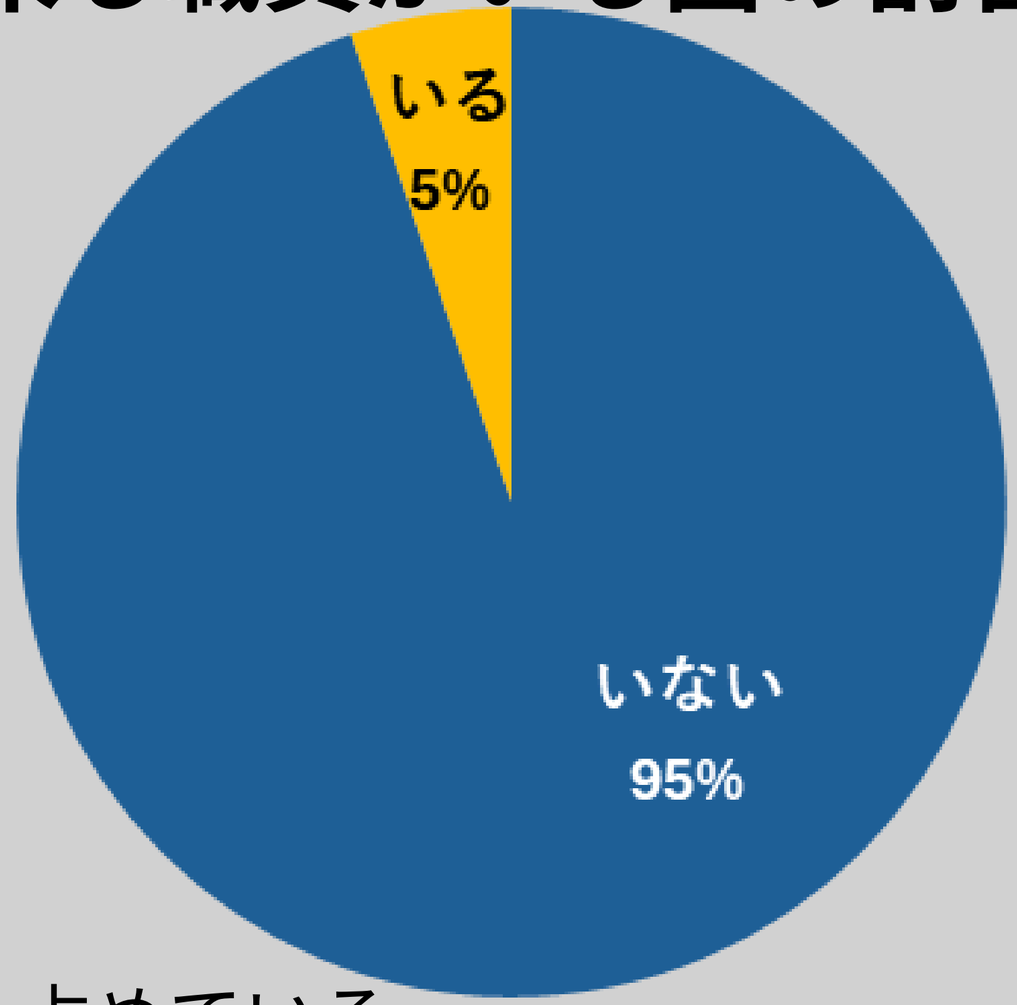
19園に在籍する外国人幼児の人数



園に在籍する職員の人数



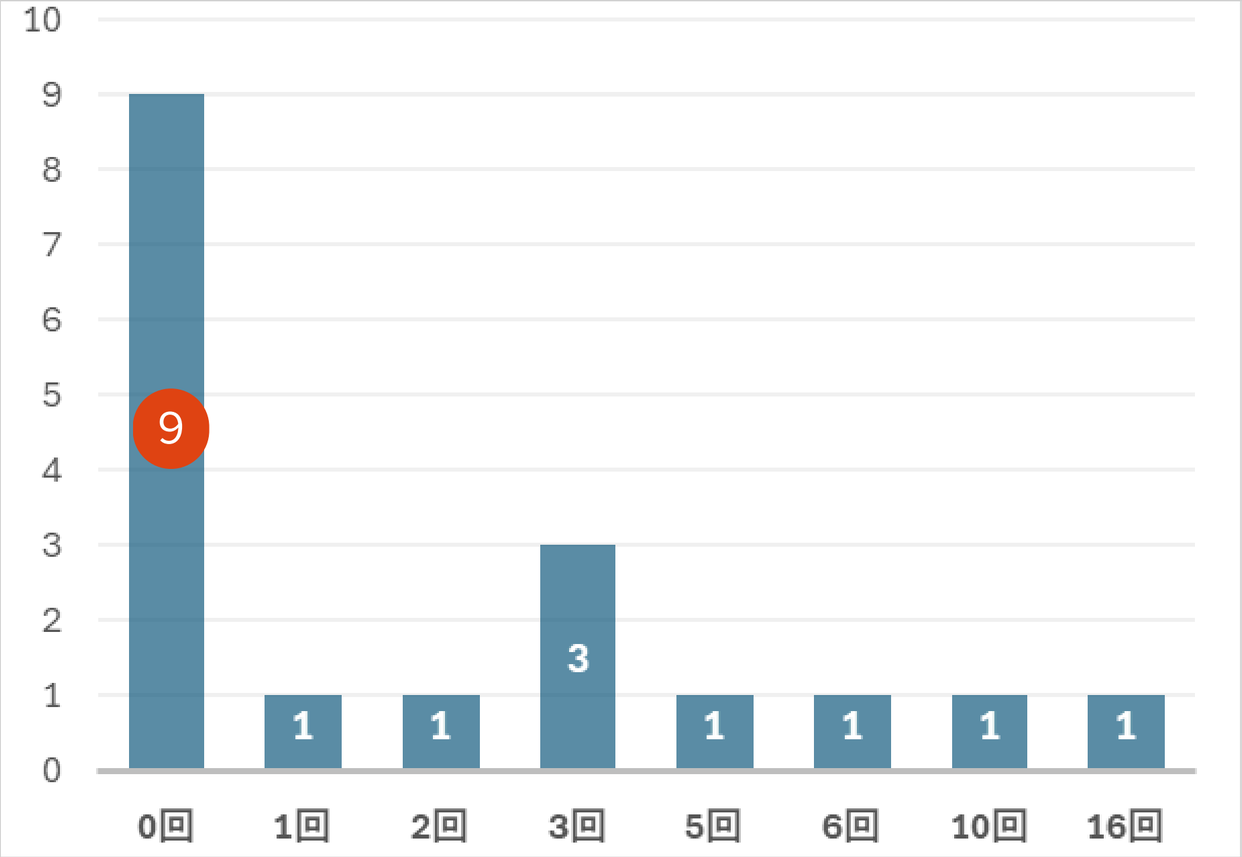
外国語を流暢に話すことが出来る職員がいる園の割合



→職員の数は20人以上、30人以下が多くを占めている。

→外国語を流暢に話すことが出来る職員が在籍している園は１件だった。

保護者の交流イベントの回数



親子遠足

保護者懇談会

保護者の会総会、保育参観、親子遠足

保育参観後に行う懇談会

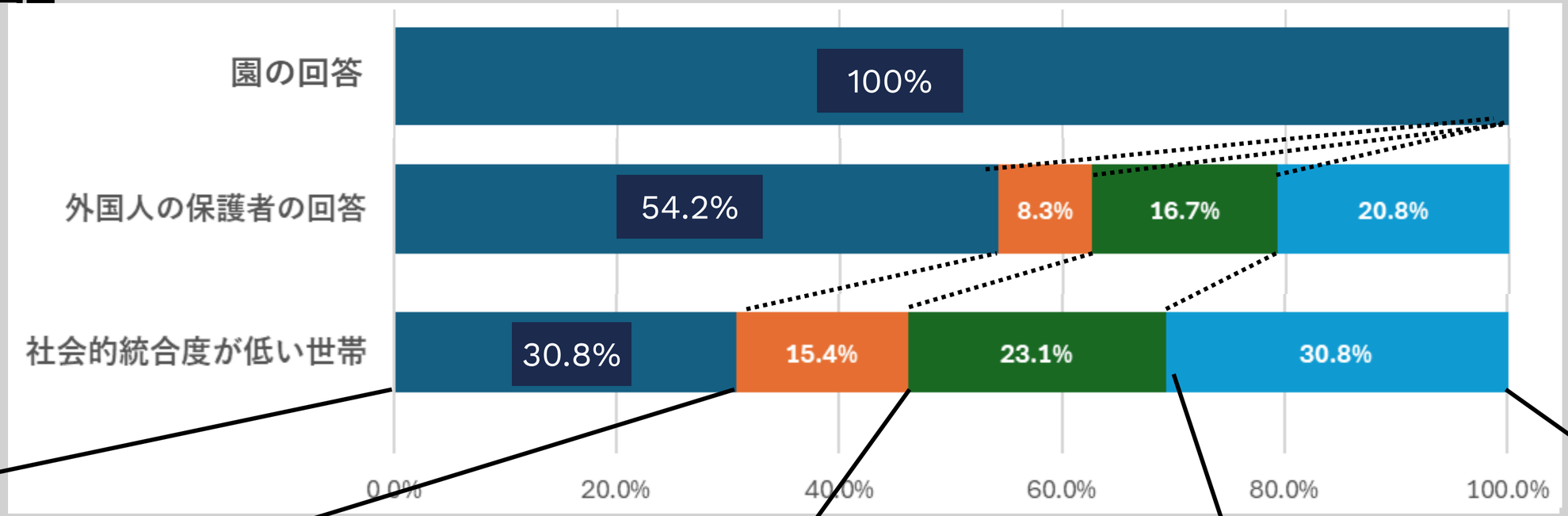
保護者の会総会

懇談会

→保護者同士の交流を目的としたイベントを開催していない園が半分を占めており、機会が不足していることが十分に考えられる。

→園ごとに回数にばらつきがあり、交流の状況が園によりかなり差があると考えられる。

外国人の保護者と園職員とのコミュニケーションに対する認識の齟齬



外国人の保護者が日本語を話せるため、十分なコミュニケーションをとることが出来る

職員が外国語を話すため、コミュニケーションが十分取れている

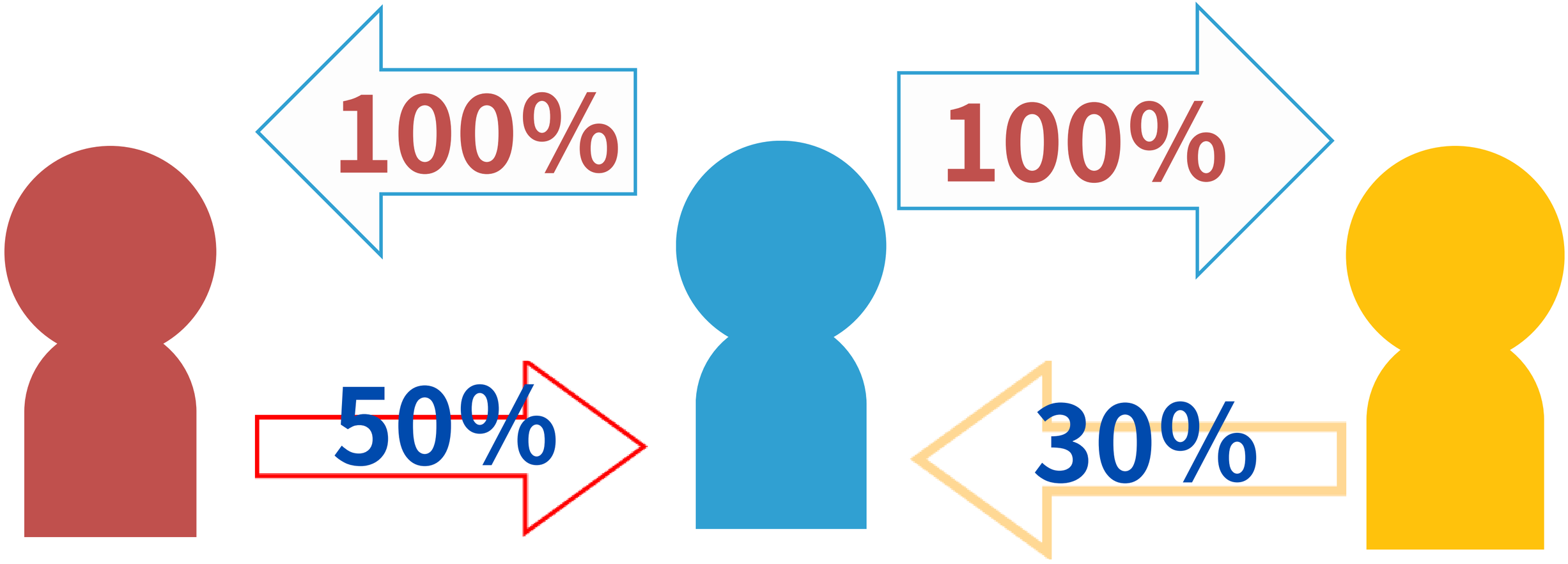
機器を使い、コミュニケーションを取っている

言葉が通じないため、十分なコミュニケーションが取れていない

中、下段のグラフは岩間ほか（2025）より作成。

園と保護者でコミュニケーションに対する認識の違いが大きい
→相談できるほどの深いコミュニケーションがとれていない？

外国人保護者と園職員とのコミュニケーションに対する認識の齟齬



外国人の保護者

園

日本語が不十分な
外国人の保護者

意見、疑問など

文化の違いは何とかなるものが多いが、宗教的なものについては、対応が難しいと感じることもあると感じる。

より日本文化を理解できるコミュニティがあるとよいと思います。
例:時間を守ること、お弁当を作ることがあること、冬は下着を着た方がいいこと　など

現在の自園2名（1世帯）は、保護者が日本語を流暢に話せるため問題なく意思疎通ができますが、以前は日本語が全く理解できない保護者との交流もありました。最近は翻訳機などもあり以前ほど大変ではなくなりましたが、日本語の微妙な意味合いなどはうまく伝わっているのか心配になることがあります。一昔前まではコミュニケーションツールが今よりなかったため、本当に苦労しました。日本語だけでなく日本のマナーなども、保護者の生まれ育ってきたものとは違うため、理解してもらえないことがあり難しさを感じます。（時間のルーズさ、気分によってはブーツを脱がずに入室する、理不尽な要求をしてくる、金銭面の意識の違いなど）

公的機関の書類に、英語と中国語訳の書類を用意して欲しい。入園の手続きや、説明時に細かいことを伝えることが難しいため、通訳の方が園に来ていただけると助かる。

→文化、慣習の違いによる困難についての記述が特に目立った。
→公文書の外国語対応や通訳の派遣を求める声もあった。

小括

言葉の壁

言葉の壁によって地域コミュニティを持つことが難しくなり、子育てに関する情報収集や支援が困難になっている。

相談する環境の不足

公文書や進学等で多言語化が進まず、必要な情報を得ることが難しい。

＋

文化の壁

母国との生活、子育ての文化の違いに適応できず、保護者や地域のコミュニティに参加しにくくなっている。

研究の流れ

(3) 支援団体へインタビュー調査

にほんご教室
ルンルン

【概要】

・ひたちなか市に位置する
　地域日本語教室。
・ボランティアを中心に
　日本語支援と異文化交流
・保護者支援

→コミュニティで相談しやすい
　環境を作っている。

にほんご教室
ルンルン

【見学・インタビュー調査】

(1) 目的

外国にルーツのある人の持つ課題の解決

(2)内容

・日本語学習を通じた交流

・異文化交流

・生活の悩みを地域の団体と連携し対処

(3)工夫

子どもを預かり、参加しやすい環境

(4)大変だったこと

日本人スタッフとの意見の相違

私立池の川幼稚園

【概要】

・日立市中成沢町に位置する私立幼稚園。
・インクルーシブ教育の観点から積極的に外国人保護者と交流。

異文化交流を中心としたアウトリーチの実践。

私立池の川幼稚園
インタビュー調査

〈池の川幼稚園の教育理念〉

- 「どんな子にも友だちと自然な生活を」を理念に、多様性を重視した教育。

- 「いろんな子がいて当たり前」、外国語を話せる職員がいない中でも多様な家庭をコミュニティに積極的に引き入れる文化。

- 保護者による同窓会活動が盛んであり外国人の保護者を巻き込み、活動をしている。

はじめのいっぽ保育園（茨城NPOコモンズ）

- 常総市に位置する認可外保育園（0～2歳は認可）。
- 様々な背景をもつ子どもたちが一緒に学ぶことで、仲間同士の理解と尊重を育む。
- 子育て経験のある外国人スタッフが保護者を包括的に支援。
- NPOを軸とした包括的な外国人支援事業の展開
- 外国人スタッフの起用、子育てを含めた保護者支援

はじめのいっぽ保育園（茨城NPOコモンズ）

【見学】

(1)目的

子どもの個性やルーツを尊重した教育

(2)内容

・子どもの保育

（多様な子どもが一緒に生活）

→他園に断られた子どもの受け入れ

(3)特性

・子育てを経験した外国人スタッフ

・一人ひとりの園児の家庭に深くかかわる

はじめのいっぽ保育園（茨城NPOコモンズ）

Q1. 保護者とのコミュニケーションは？
日本語。
教育支援として通訳を呼ぶことも可能。

Q2. 家庭への介入はどのように行っていますか
相談に乗り、助言をしている。
離婚調停やDVなど。

Q3. 運営状況はどうですか
給付や支援金がなく厳しい
（もう一人職員がいれば該当）
外国にルーツのあるインターン生を
受け入れている

視察の小括

言葉の壁	通訳、外国人職員 日本人とのコミュニティ
相談する環境の不足	保育園職員 保護者どうしのつながり 地域団体（NPO）
文化の壁	文化の相互理解 多様な子どもの受け入れ 園児の家庭への介入

これまでの「小括」を踏まえ

いかに外国人の保護者を迎え入れるコミュニティを形成するか。

外国人の保護者にいかにして子育てに必要な情報を提供するか。

研究の流れ

(4)提言内容の模索。

三者連携による支援体制の全体像

市内高等教育機関(本学)

運営・人材・調査

- ✓ 施設提供・教室運営ノウハウ
- ✓ 学生ボランティア派遣
- ✓ 活動評価・アンケート調査

↑ 相談連携・紹介

茨城キリスト教大学内 異文化交流拠点(コミュニティ形成)

日本語学習
生活に必要な日本語の習得

保護者交流
悩みの共有・異文化交流

相談への橋渡し
子育て支援・専門機関へのアクセス

幼稚園・保育園・認定こども園

子育て実務・現場支援

- ✓ 日々の保育・教育活動
- ✓ 保護者との日常的な接点
- ✓ 子育ての悩み把握・個別配慮

↓ 現場フィードバック

↓ 運営・リソース

日立市役所

制度・手続き・多文化支援

- ✓ 医療制度・行政手続きの案内
- ✓ 多文化共生施策の推進
- ✓ 生活情報の提供

期待される効果:

- **Hardware** 相談のハードル低減
- **Timing** 問題の早期発見・対応
- **Cycle** 地域支援の強化・保護者コミュニティの形成

【 お悩みカード 】
保護者が事前に悩み事を記入したもの

「お悩みカード」を活用した具体的フロー

相談のハードルを下げ、確実な支援へ繋げる仕組み

1

作成・入力

Google Forms活用

母国語で入力し、生成AI等で日本語へ自動翻訳。スマホからいつでも記入可能。

2

収集・分析

交流会での回収

記入内容をリスト化し、相談内容の傾向を事前に把握。カテゴリー分けを行う。

3

事前共有

相談先と連携

市役所や園へリストを共有。担当部署や想定回答（Q&A）をあらかじめ準備。

4

POINT!

相談時提示

窓口でカード提示

保護者が「お悩みカード」を窓口で提示。要点が伝わっており、会話の障壁を低減。

5

回答記録

職員による記入

窓口職員がカードに回答を記入。会話が難しくても文字情報として確実に残す。

6

フォローアップ

交流会で確認

カードを持ち帰り、交流会スタッフと一緒に回答を確認。必要に応じ追加翻訳。

7

次回の支援へ

データ活用

FAQ・改善

蓄積データを分析し、よくある質問を多言語FAQ化。支援体制を継続改善。

- 準備フェーズ（コミュニティ・連携）
- 実践フェーズ（保護者・窓口）
- 解決・循環フェーズ（事後対応）

参考文献

・梶田 孝道 .丹野 清人 .樋口 直人 2005『顔の見えない定住化：日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会

・荒牧 重人. 榎井 縁 . 江原 裕美 . 小島 祥美 . 志水 宏吉. 南野 奈津子. 宮島 喬. 山野 良一 2017 『外国人の子ども白書：権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の観点から』明石書店

・田巻 松雄　2014『地域のグローバル化にどのように向き合うか―外国人児童生徒教育問題を中心に―』下野新聞社

・岩間 信之.中島 美那子.駒木 伸比古 2025.外国にルーツのある子どもたちの成育環境の問題と その改善に向けた提言 ―外国人散在地域Ａ市の事例研究― .E-journal GEO 20:338-358.

・中央教育審議会 2005『子どもの取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）』）文部科学省

・茨城県　在留外国人関係データ集　外国人児童数（小学校）【令和6年5月1日】より作成。(2025/12/15 22:24参照)